



COMPANY'S
CHALLENGE

NO.102



“好き”や“楽しい”を原動力に 多彩なアウトドア事業へ挑む

キャンプ女子株式会社 代表取締役 柴垣 道宏氏
代表 橋本 華恋氏

SNSを足がかりに アウトドアブームを牽引

アウトドアブームが到来し、キャンプの楽しみ方も多様化しました。一人で自然を楽しむ“ソロキャンプ”、ホテル並みのサービスを受けられる“グランピング”など、さまざまな楽しみ方が生まれています。そのアウトドアブームの一端を担ったのが、福岡市中央区のキャンプ女子株式会社、通称“キャンジョ”です。

会社を設立したのは代表取締役の柴垣道宏さんと代表の橋本華恋さん。二人は競合する化粧品メーカーの営業として働きながらも意気投合し、休日には一緒にキャンプへと出かける仲に。「今後のキャリアを考えた時にこのまま同じ仕事を何十年も続けることに疑問を感

じ、好きなキャンプを仕事にしたいと考えていました。しかし、当時はキャンプに関連する事業に取り組む会社も少ない状態で、転職も困難だったんです。最終的には自分たちで会社をつくる道が一番早いという考えに至りました。」と、橋本さんと柴垣さんは笑います。当時珍しかった女性目線でのキャンプ情報の発信を行うため、2018年8月にはInstagramでキャンプ女子アカウントを開設し、国内最大級のキャンプ女子コミュニティへと成長。2019年6月にキャンプ女子株式会社を設立以降、福岡市の油山グランピングの運営管理を皮切りに、全国各地でキャンプ場プロデュース事業を展開していきます。そして、キャンプ道具の貸し出しサービスやキャンピングカーのレンタル、アウトドアイベント

のコーディネートと、事業を拡大してきました。

またユニークな取組みとして、アーティスト活動をスタート。2020年に「キャンジョバンド」としてデビューし、音楽イベントにも積極的に出演するなど活躍の幅を広げています。「私たちの活動はSNSのプラットフォームに依存しているところがあるので、スマートフォンを持っていない人にはキャンジョ自体の存在をなかなか知ってもらえません。世代を問わず歌っていただけるような曲があれば、もっと多くの皆さんにキャンジョの存在を知ってもらえるはずですから」と橋本さん。ステージでは単に楽曲を披露するだけではなく、テントの設営を行うなど、オリジナルのパフォーマンスが注目を集めています。

【プロフィール】

橋本さん(写真左)と柴垣さん(写真右)はともに前職で化粧品メーカーに勤務。ヘアカラー剤などの営業として働く中、共通の趣味であるキャンプを仕事にするため、2019年にキャンプ女子株式会社を立ち上げる。



1



2



3



4

1 アウトイベントのコーディネートからキャンプ場のプロデュースまで、さまざまな事業に取り組むキャンジョ。今後はキャンピングカー事業にも注力する

3 キャンジョバンドというアーティストとしての一面も持ち、アウトイベントから音楽フェスまで、さまざまなステージで活躍している

2 キャンプ場が賑わうほど、その一方で課題となる自然環境の保護。「自分たちの遊び場である自然を守るのも、ミッションのひとつ」と橋本さん

4 「遺伝子からそっくり」と話す柴垣さん(左)と橋本さん(右)。そのため会社の経営方針で揉めることもほとんどないという

「大切にしている価値観」に基づき 多角的な事業を展開

キャンプ場プロデュース事業では、キャンプブームに後押しされる形で、企業だけでなく自治体からの相談も増えているというキャンジョ。ところが、依頼をすぐには引き受けないようにしているそうです。「自然体験をしているか」、「人と自然に優しい」、「みんなで楽しくできる」、「新しい価値が生まれる」といった、キャンジョが大切にしている価値観に共感いただいたうえで、事業の目的の部分から共に進めていくようにしているとのこと。橋本さんは、「コンサルタントとして協力することが決まれば、キャンプ場のコンセプト設計から運営へのアドバイス、ホームページの制作、プロモーションまですべて全力でサポートします。だからこそ事前に現場を見て、相手と会ってお話することが重要」と強調します。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大によって気軽に外出することが困難になり、運営していた油山のグランピング施設が閉鎖。経営的に厳しい状態に陥ってしまっ

たといいます。「会社の資金が目に見えて減っていくのは非常にづらい状況でしたが、それ以上にキャンプを楽しむにしていたお客さんのほうが悲しいはず」と逆境を乗り越え、自宅でアウトドアを楽しむ“おうちキャンプ”をSNS等で発信。ベランダでキャンプをする“ベランピング”をPRしたり、室内でも使えるアウトドアグッズの開発に携わったりすることで、風向きは徐々に変わっていったそうです。

「多角的な事業に取り組むようになったきっかけはコロナ禍にあります。三密を避けるレジャーとしてキャンプブームが到来し私たちの仕事も忙しくなりましたが、キャンパーのマナー問題など新しい課題もたくさん出てきました。だからこそ私たちはキャンプの素敵な面だけを発信していくのではなく、次のステージとして自然環境を守る活動にも取り組んでいかなければなりません」と橋本さん。「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え一体的に守っていく、ワンヘルス(One Health)という考え方に共感し、その考えを取り入れた事業を展開しています。

好きを原動力に未来を切り拓く

現在はキャンプで出た生ゴミのコンポスト化や生分解性洗剤の利用などを訴えるキャンジョ。有機栽培の農場づくり、国内外の製品を集めたオーガニックスーパーの展開、日本の優れた食材などを海外に伝える貿易事業など、新たな事業にも果敢に挑戦しています。また橋本さんはこれまでの経験を活かし、2024年4月にスタートアップカフェのコンシェルジュに就任。新人起業家たちの相談役としての活動も始めました。

その行動力で新しい事業に挑戦し続ける橋本さん。「楽しいこと、好きなことで人生を埋め尽くしたい」。その想いを原動力に未来を切り拓いていきます。

取材日：4月15日

キャンジョ

キャンプ女子株式会社

キャンプ女子株式会社

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-15-30-511
https://www.camjiyo.com